

アメリカ留学を通して

情報文化学科 2年 川田浩子

私は8月20日から12月13日までの4ヵ月間、アメリカ留学を体験させていただきました。お世話になったのは、ノースウェスト・ミズーリ州立大学。これから私は、自分なりの経験をもとに体験して良かったこと、学んだこと、行くまでの準備などを述べ、少しでも役に立てて頂ければと思います。

8月20日の朝からアメリカに向かいました。地元の長岡駅から新幹線で東京駅に行き、バスに乗り継いで成田空港に到着しました。飛行機は成田からミネアポリスまで11時間程乗り、カンザスシティ行きの飛行機へ乗り換え、バスで学校の寮へ行くという経路でした。海外へ学生として長期間滞在するにはそれなりの準備が必要で、この時点でひと段落と思えるほどでした。

その準備としては、・パスポート・ビザ・SEVIS・海外保険・クレジットカードなどの手続です。

まず初めに、学校内のパソコンを使って、担当の教職員の方々と一緒にSEVISの申請手続きをします。数ある質問に答えていき問題がなければ、数時間で終わるものです。

次に入国査証(ビザ)申請をします。ビザを申請するには、東京都港区赤坂にあるアメリカ大使館で面接を行わなければなりません。この面接をするための事前手続きもあり、この手続きも学校内のパソコンで、教えていただきながら申請します。この時、ちょっとした問題が発生したのですがアメリカ大使館に電話をして無事に手続を完了することができました。

面接日の前までに、パスポートを取らなくてはなりません。過去に一度パスポート持っていたことがあったのですが、当時は親にすべてやってもらっていたので、今回自分で手続するのは初めてでした。有効年数は、二十歳未満は5年しか申請できません。

そしていよいよアメリカ大使館へ面接をしに行くのですが、ここでは交通費は支給されません。私は一緒にアメリカへ留学に行く友達2人と夜行バスを予約して行きました。面接までは、建物の外から並び待合室でもなかなか待たされるため時間がかかると聞いていたので、到着したのは予約の1時間前でしたが並び始めました。そのおかげか、並んだ時間から一時間半程度で大使館から無事出ることができました。帰ってから数日後に、大使館に預けられていたパスポートが郵送で自宅に届きます。大使館のあとの東京散策も良い思い出です。

クレジットカードも、フライトまでに作っておいた方が良いでしょう。使い過ぎには注意しなければいけませんが、大金を持っていくよりは便利です。

海外保険は、留学が近づいてきたら学校の方から声がかかり、説明会が開かれ申し込みの期日も言い渡され、入ることができます。

これらの手続だけでもめげそうになるくらいでした。

しかし、そんなことをも吹き飛ばすほどの期待もこの留学にはありました。私はアメリカに行き自分の英語能力を向上させたいという目的で、留学を希望しました。英語で会話をするということを読み書きと比べるとあまりしてこなかった私は、英語を母国語として使うアメリカに行き自分の英語はどこまで通用するのかが知りたかったという思いがあったのです。

入学してから留学を決意するまでの間、留学に関する説明会や先輩方と接する機会がありました。そういった場にはできるだけ参加するように心がけました。

アメリカ留学を大きな目的にこの大学に入学した私でしたが、大体の留学費用を知ってから留学を諦める方向に気持ちが向いていました。しかしその先輩のお話や、他の先輩方のお話を聞いていくうちに語学向上だけでなく、様々な体験が自分自身の成長にもなると感じるようになりました。家族と離れて国外で4ヵ月間過ごすというだけで貴重な体験になりますし、それは自分の宝になると思ったのです。

両親が後押ししてくれたこともあり私は留学を決心しました。

しかし逆に自分の英語の能力で日本語の一切ない英語のみの環境に身を置いてやっていけるのかという不安もありました。今まで両親の支え、友達の支えがあっただけでここまで来た自分でした。それが両親や友達と簡単には会えない距離になり、さらに誰かに頼るとなったら英語を使わなければなりません。ですがそれも段々と期待に変わりました。使う言葉は違えど同じ人間です。心は通じ合う、きっと何とかなんと正直半ば自分に言い聞かせながら過ごした部分もありました。

そんな経緯もありながら、日本の14日、アメリカでは13日の夜中に学校の寮に到着しました。移動時間は約14時間と聞いていて不安に思っていたのですが、予想していたよりは快適でした。寒さが割とあったのでブランケットの代わりになるような物はあった方がいいと思います。また、予想していたよりは、なので機内に快適さを期待しないで行くところとちょうどいいと思います。

到着した寮では現地の大学生が数人待っていてくれました。彼らはこの寮の各階の責任者のような人たちでRA(Room Assistant)と言われ、定期的な各階ごとのミーティングの際などにお世話になることになります。彼らは夜中にも関わらず笑顔で親切に接してくれました。しかし彼らが寮に関する説明を英語でしてくれた時、あまりの聞き取れなさに私は大きなショックを受けました。

機内のアナウンスや客室乗務員さんが話す英語を聞いた時点で軽くショックを受けてはいたのですが、寮の説明を聞いている間私はこのあとの4か月間のことを想像し不安に襲われていました。



説明が終わり私たちは一人ずつ鍵を渡され、4階に通されました。同室者は現地の人が聞いていて、緊張しながら部屋に向かったものの同室者は一緒に留学に行った友人と知って、その瞬間はほっとしたような残念なような複雑な気持ちになりましたが、今となっては良かったと思っています。新しいことだらけのなか、4か月間自分の部屋で緊張がとれないという状況は厳しかったと思います。

その後夕飯を食べていなかった私たちは、今後頻繁に使うことになるスーパー(Walmart)や、Safe Rideと呼ばれる学校の無料バスなどを、トラブルを起こしながら経験することになります。このSafe Rideはこの寮生活では欠かせないもので、運営している日と運営していない日があります。時間などもしっかり把握しておかないと半日をバス待ちに使ってしまうので要注意です。

翌日はガイダンスなどで学校に併設されている医者に行き、支給されるパソコンや教科書を受け取りに行くなどしました。学校の敷地内はとても広く、指定された時間に指定された場所に行こうとしても迷子になり毎回のよう遅刻をしてしまいました。

その後授業を受ける教室へ行き、クラスメートとなる人たちと先生方と顔合わせをしました。

3日目の時点で、付き添いで来ていた大学の先生は日本へ帰り完全に私たち留学生17人の力で過ごす生活が始まりました。



授業は朝9時から午後3時まで行います。初日は正直授業についていけるか以前に聞き取れるかという不安でいっぱいでしたが、ESLの先生方は英語を第二言語とする生徒のためにとっても聞き取りやすくゆっくりと話してくださいました。ゆっくりと言っても、今まで出会った人たち比べて比較的と言う意味ですがそれでも聞き取りやすさは大きく違いました。授業が始まって間もない頃はすべてを理解できたわけではありませんでしたが、9月、10月と日を追うごとに自然と聞き取れるようになっていく感覚は嬉しいものでした。課題は8月9月の時点では想像していたより少なくあっけにとられていたのですが、10月11月に入ると途端に量も内容も難しくなり遅い時間まで課題に費やしてしまうこともありました。

クラスメートは皆いい人たちばかりで、優しくて本当に面白い人たちでさらには先生も面白いので授業は楽しいことの方が多かったです。

寮の生活は初めてで、朝起きてから寮に戻ると誰かしらに会うので最初の方は修学旅行気分でした。たまに全員で集まってカードゲームをしたり、数人で集まっても何か話したりとそれが当たり前になっていました。また同じ4階には私たち日本人以外にもネパール人が数人いました。文化や習慣の違いに困ったこともあり最初は戸惑ったものの彼らは陽気で楽しい人たちで会うたびに仲は深まり、別れの際は悲しくて仕方ありませんでした。同じ階に一人日本人もいて、彼女は美術を専攻していて彼女の学ぶ教室を見に行ったりイベントと一緒に参加したりもしました。図書館やUNIONという建物で一人の時間を作ったりしながらも寮生活は賑やかで本当に楽しいものでした。その分留学が終わってから数日間は少し寂しさもありました。

この大学では、毎週様々なイベントが開催されます。これらのほとんどは無料で参加することができ、このイベントに参加することで現地の人と交流をすることもできますし、どれも楽しい思い出になっています。マジックショー、合唱コンサート、サーカス、健康フェスタ、演劇、お化け屋敷などどれも楽しかった思い出ばかりで

す。それとは別に、ESL で月に 1、2 回バスを使って Field Trip で遠出をする機会があり私たちは動物園や美術館や買い物に行きました。動物園は私が行った動物園の中で一番大きく、感動しました。迷子になったことも思い出の一つです。



留学プログラムの一環として、1 日 1 時間現地の大学生と日本人 2 人の、一組で会話をする機会がありました。それを週 2 回 4 か月間ありました。私たちの Conversation Partner は Melanie という年上の女の方でした。彼女はとても明るく笑顔が印象的な可愛い人で、素敵で尊敬できる人でした。最初は緊張してあまり喋れなかったのですが、常に笑顔を決やさず楽しく会話してくれたおかげで緊張を意識せず会話することができました。Conversation 最後の日に話してくれたのですが、実は彼女も緊張していたらしいのですがその時は全くそれを感じず、そんな心配りにも感動しました。ルームメイトが日本人で授業以外ではあまり現地の人と定期的に接することのなかった私にとってこの Conversation の時間は非常に大切な時間になりました。彼女との会話のなか

で聞き取りの成長を一番実感できる時間であり会話力や足りない点を確認できる時間でもありました。

多くの新鮮な体験のなかでより新鮮だった体験は、Thanks giving day です。11 月に 5 日間程大学の近くに住む住民のお宅に泊まらせていただくということでした。私が同室者の友人と泊まらせていただいたのは 1 歳のお孫さんを持つ Sherry 夫妻のお宅で、大きな豪邸だったので驚きました。Sherry 夫妻は私たちに本当に良くしてくださって、好きなものは何かと聞いて食べさせてくださったり、部屋は好きに使ってとテレビは見放題であったり、お手製のブラウニーを振舞ってくださったりもしました。また交通手段が限られている私たちを色々な所へ連れて行ってくださりました。気分は長期休暇に祖父母の家に行ったような感覚でした。また Sherry 夫妻の下で過ごすことで、一番一般的なアメリカ人の暮らしに近く、現地のラフな会話を知ることができ、そこで学んだ単語や熟語もありました。



金銭面では、両親の多大な援助により留学を可能にさせていただきました。学校側からも 3 分の 1 ほど援助を頂き大変な助けになりました。アメリカ留学を希望する方は特に、前もっての準備が必要になります。金銭面ではそういった申し訳なさはありませんでしたが、4 ヶ月という期間でそれ以上の経験ができたこと実感しています。

これらの貴重な体験を少しでも早く活かすには帰ってきてからの春休みをどう過ごすかによって変わってくると思います。私自身は少し後悔する過ごし方をしてしまったと反省しています。アメリカにいた時は、未体験のものが周りにあふれていて、刺激があり勉強も今までにないくらい自主的に実行できていました。12 月 14 日に日本に到着して、飛行機と新幹線の長時間の移動に疲れを感じてはいたもののそのやる気はまだ残っていました。しかし翌日丸一日休むことに時間を使ってしまってから、やる気はあるのに体が動かず日に日にやる気は衰え友達と遊ぶことばかりになっていきました。さすがにこんなことでは駄目だと思い立ち、かろうじてアメリカにいた頃の熱量を持ちこたえ、ちょっとずつ英語の復讐をするようになりました。

この留学を通して私は、英語の語学力向上、特に聞き取りを主に会話力の成長は嬉しいものでした。それだけでなく、アメリカの地で実際に過ごすことで日本とは違った彼らの習慣や日本人とアメリカの人で違っている所や同じ所を自分の目で見ることも大きな経験です。ここで満足することなく、英語の勉強を続けて将来この経験を役に立てていけるよう邁進したいと思っています。

